

議会報告「市民との意見交換会」記録

日 時：平成 31 年 2 月 1 日（金）19 時 00 分～20 時 30 分

出席者：一般社団法人兵庫県猟友会加西支部 9 名

担 当：加西市議会 B 班

第 1 部 議会報告

12 月議会の報告。

第 2 部 意見交換会

（議 会）数年前までは、泉地区で獣害の訴えが多くあったが、加西市全域に被害は拡大している。猟友会の皆様には、委託事業等で駆除に協力いただいている。防護柵も大切だが、個体数を減らすことが重要だ。忌憚のない意見を伺いたい。

（猟友会）これまで、下里・賀茂・九会地区の被害は少なかったが、全域で増えている。一方、猟友会の会員は 45 年前 264 名で、うちわな猟の会員は 5 名だったが、現在、銃猟は 27 名、檻やワイヤーによるわな猟が 54 名という状況で主流はわな猟となっている。

獣害対策として、銃による駆除の要請も強いが、猟銃の所持についても許可が厳しく、会員の高齢化で後継者問題が大きな課題。

駆除委託事業では、6 月から 8 月を中心にわなによる駆除活動を 54 名で行っている。現在の委託料では、1 日当たりわずかの支給（300 円）しかできない状況。

（猟友会）金網設置などの効果でシカ被害は減ってきている。イノシシは学習能力が高くわなでの捕獲は困難で、猟犬と銃による捕獲が望ましいが、住民の理解が難しくなっている、獣害対策として、銃による駆除活動の啓蒙が必要。

（猟友会）安全に配慮し、猟期に活動していても、警察への通報がある場合もある。一般市民の理解が必要。

（猟友会）銃による駆除が困難になっている。猟友会の駆除活動の見学会などで市民の理解を得たい。

（猟友会）上若井地区では、金網と電柵の併用で、被害は年に 1 回程度まで減っている。一方で、山に入りにくくなり、これまで以上に荒れてきている。怖さを感じる。捕獲獣についての処分の方策が求められている。

（猟友会）富合地区ではわな猟の 3 名で活動している。活動できる有資格者を増やすことが必要であり、資格取得費用の補助の拡充を求めたい。

多可町のような処理施設や、流通経路対策が重要。

（猟友会）わな猟でも、シカ個体群管理事業の銃器による駆除活動でも、わずかの出役費しか支給できない。加西市の獣害対策費の予算を確認したい。

（議 会）平成 29 年度の金網設置事業では、約 10km の施工に対し、2,565 万円の事業費で

国 827 万円、加西市 1,665 万円、地元 73 万円となっている。

(猟友会) 金網対策は進んでいるが、山に入れない状況もある。猟友会の駆除活動費用にも、配慮を求めたい。

(猟友会) 銃を使える場所がない。また、制度上、禁猟区でも、獣害駆除の「とめさし」には銃は使えても、逆に猟期には銃が使えない。

(猟友会) 山が荒れ、立ち枯れや倒木も多く駆除活動にも支障がある。

(議 会) 青野ヶ原演習場内では、自衛隊の協力も得て国有財産一時使用申請書も提出し、捕獲檻の設置や猟銃の使用も可能と聞いているが。

(猟友会) 2年前(平成29年2月)駐屯地業務隊長と協議を行ったが、小野市や加東市に隣接しており、猟犬や銃器の使用は困難と判断して、九会地区に4基の箱わなを設置している。土地所有者との関係でむやみに増やせない。

(制約がある中) 一生懸命活動しているが、頑張るほど赤字の状況がある。

(議 会) 議会からも提案し、要望していきたい。

(猟友会) 獣害駆除の専従班を5名から10名の嘱託職員で設置すればどうか。また、京都市などでは、有害獣一頭あたりの補助が充実している。

(議 会) 処分の問題についても提起されたが、猟友会としての考えはどうか。

(猟友会) 解体処理の施設を作り、ジビエ料理への活用もある。現在では、4トン車を改良した解体車もある。

(議 会) 一昨年、福岡県糸島市を視察した。専従班が組織され、補助も充実している。解体処理された肉については、貯蔵、販売されていたが、活用とのバランスなどに課題がある。また、加西市とは、農業被害の額や捕獲頭数が基本的に異なっていることもあるが、市の方へ取り上げていきたい。

(猟友会) 本来、猟友会は駆除を本来の目的としていない。趣味として猟をしている。駆除協力については、保護と管理が重要であり、協力は惜しまないが、会員からは厳しい意見も出ている。一気に改善とは言わないが、委託費の改善を求めたい。